



〒861-0304 熊本県山鹿市鹿本町御宇田198-5

熊本県城北家畜保健衛生所

城北家保ホームページアドレス

城北家保メールアドレス

TEL 0968-46-2075 FAX 0968-46-3332

<http://www.pref.kumamoto.jp/site/jouhoku/>

jouhokukaho@pref.kumamoto.lg.jp

牛伝染性リンパ腫 (EBL) について

EBLの発生頭数は増加傾向にあり、農場内でのまん延も増えています。抗体陽性牛の急激な増加により、感染防止対策が追いついていないのが現状です。

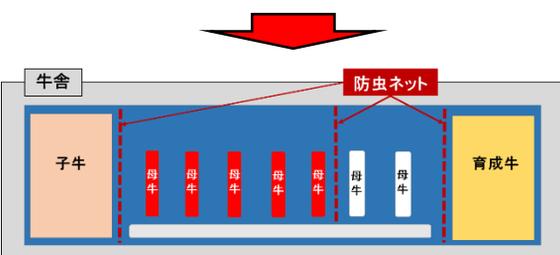
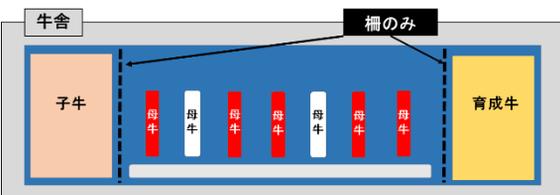
EBLは、吸血昆虫による血液の媒介や血液の舐めとり等により感染します。感染牛由来のリンパ球1,000個、血液量でいうと約1 μ lで感染が成立するといわれ、吸血昆虫の口に付着した程度の血液でも感染する可能性があると考えられています。

そのため、吸血昆虫対策や陽性牛と陰性牛の隔離等が重要となります。その他、除角や去勢、削蹄等の出血を伴う作業でも、器具を介し感染する可能性があるため、器具の洗浄・消毒を徹底しましょう。また陽性母牛の哺乳により子牛に感染する危険があるため、早期離乳や陽性母牛の隔離等の対策も必要となります。



EBL発症牛 (独)農研機構HPより

※繋ぎ飼い繁殖農家の対策例



■ 陽性牛 □ 陰性牛

<感染対策例>

- 牛房間に防虫ネットを設置
吸血昆虫が、吸血後すぐに他の牛へ移動できなくするだけでも効果が見込めます。
- 陽性牛と陰性牛を1房分(4~5m)離す
感染リスクが高い(保有ウイルス量が多い)牛は、唾液中にウイルスを排出する場合があります。
- つなぎ飼いの場合、牛群の並び替え
- 早期離乳
- 可能であれば、陽性牛を他の牛舎や農場に移動
- 陽性牛の計画的更新と陰性後継牛の確保

6月になれば梅雨に入り、梅雨明けから吸血昆虫は一気に増加します
EBL対策を、5月中に実施しましょう！！

韓国における家畜伝染病の発生について

- ◆ 令和5年5月10日、忠清北道清洲市の肉牛農場で口蹄疫の発生が確認され、同年5月中に計11農場で発生が確認されました。同年6月以降は落ち着いていますが、警戒が必要です。
- ◆ また、令和5年12月～令和6年4月にかけて、釜山広域市で発見された野生いのししからアフリカ豚熱（ASF）ウイルスが検出されており、空港やフェリー発着場での消毒実施や食品の不法持ち込みの規制等、水際対策が強化され、厳戒態勢となっています。
- ◆ ウイルスの国内侵入を防ぐには、①畜産関係者は不要不急の渡航を自粛すること、②海外から肉製品を持ち込まないこと、③肉製品が入っていた容器を野外に捨てないこと、④帰国後1週間は動物に近づかないことが重要です。

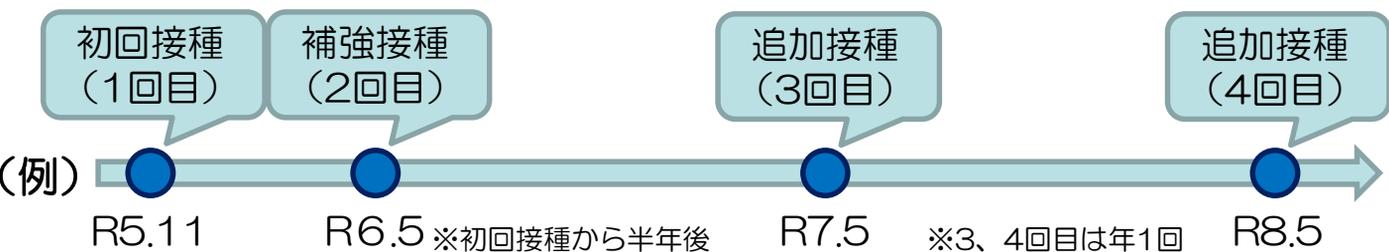
ゴールデンウィークやインバウンドの回復により、海外を含めた人の往来増加が予想されます。農場主以外に、家族や知り合い等が海外に行かれた場合には、十分な対策をお願いします。

豚熱ワクチン補強接種について

令和5年9月、熊本県内で豚熱ワクチンの接種が開始され、約8か月が経過しました。現時点で、九州内で養豚場での続発、陽性いのししの摘発はされていませんが、油断できない状況が続いています。引き続き、飼養衛生管理の徹底および防疫対策の実施をお願いいたします。

豚熱ワクチンの初回接種から6か月後を目安に、6か月以上飼養する豚（繁殖母豚、育成豚、種雄豚、愛玩豚等）は、補強接種を実施する必要があります。初回接種日の確認をお願いします。

2回目の接種以降は、1年に1回、同一個体で計4回の接種が必要です。



近隣諸国における悪性伝染病等発生情報

近隣諸国における海外悪性伝染病発生状況

病名	型	発生地（国）	畜種	発生年月日
高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）	H5N1	台湾	家きん（3件）	3月～4月
アフリカ豚熱		韓国	野生いのしし（148件）	3月下旬～4月

令和6年(2024年)5月1日現在

毎月20日は「くまもと家畜防疫の日」です。畜舎の一斉消毒をしましょう！！